



視察研修(弘前城天守)



会報 防災だより

2017
VOL.18

3月31日発行

CONTENTS

1. ご挨拶	会長 大黒裕明	2P
2. 防災土養成事業		2P
3. 視察研修		2P
4. 災害時要援護者支援事業		4P
5. 全体研修会		4P
6. 各消防署管内主催事業		4~6P
7. 甲種防火管理再講習開催		6P
8. 平成28年八戸消防広域圏内の火災概況		7P
9. 八戸高度救助隊の紹介		8P
10. 火災に備えての備蓄品等の紹介		8P

題字揮毫 大黒会長



ご挨拶

八戸地域防災協会

会長 大黒 裕明

防災日より第18号をお届けします。東日本大震災から六年が経過しました。最近の復興計画を見ると、いつの間にか、被災地は岩手・宮城・福島のみならず、三県に比べると被害は少なかつたかもしれませんが一時はこちらも大変な思いをしてそれでも頑張ったんだよ、とつい声をあげたくなるのは私だけでしょうか。

また、昨年は、英国のEU離脱や韓国、スキャンダル、さらには米国の大統領選挙など、海外の状況に大方の予想を裏切る展開があり、何が起るかわからないという不安に幾度も襲われました。地球の気候についてはこれまでも前例のない変化が起ると言われていますが、それだけでなく、人間の価値観も世界的な規模で変わりつつあるようです。「一体どうなっているんだ」これにも声を荒げたくありませんが、でも平静さを失ってはいけません。変化を希望ととるか脅威と捉えるかは人によるでしょうが、どんな事態に遭遇しても、事実を素直に見つめ冷静な判断をしなければなりません。

三重の取り組みは尊敬に値すると言って良く、「今までと同じにやっているから良いんだ」とか「これ以上は無駄だ」という考え方は捨てなければならぬと深く教えられました。大いに参考にさせていただきます。

八戸の消防の方々については、一昨年のネパールに続き、昨年は岩泉町へと、当地域内だけでなく広く救援活動をしておられます。今年から当市は中核都市となり、消防についても組織の充実が図られこれまで以上に内容も増すことになりました。ですが、地域を守る要として私たちに安心と安全を届けていただきたいと願います。

私は従業員にいつも、「うちの会社はローカルカンパニーなんだよ」と言っています。地域の繁栄があつてこそ会社が維持できるという意味ですが、当会会員の多くの方が似たような環境におられると推測します。皆で地域を盛り上げ、自分たちの生活も守っていききたい、当たり前のことですが、それを普通に続けるのは偉大なことだと、改めて心に刻みたいと思います。協会からの活動はそれが原点です。これからも温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

防災士養成事業

当協会の事業の一環であります「防災士養成事業」として平成27年度までで56名の防災士が誕生しています。平成28年度も、更に多くの防災士を養成するために、研修元である「株式会社防災士研修センター」と直接委託契約を結び、平成28年10月1日（土）、2日（日）の2日間の日程で八戸市（会場：八戸消防本部5階防災教育・研修室）で養成講座を開講し、協会加入事業所から2名の方が受講され、資格の認定を受けました。



視察研修

平成28年10月6日（木）、7日（金）の1泊2日で、平成28年3月26日に開業した北海道新幹線の新駅である奥津軽いまべつ駅や青函トンネル記念館等の視察に24名の方が参加し、防災面においての研修をしてきました。



視察研修に参加して



大立洋金属株式会社
小笠原 淳 一

去る10月6日、7日の日程で研修会に参加してきました。最初に視察した、新幹線駅としては日本一小さな町にある奥津軽いまべつ駅では、駅長より火災発生時の対応や消火設備等についての説明を受けました。駅には50メートルごとに消火栓が設置してあること、また、トンネル内にも上段、中段、下段と三段階に分かれて火災検知器が取り付けられており、常に監視しているということでした。ホームには3本のレールが敷かれており、最初は不思議な感じを受けましたが、駅長の説明により、青函トンネルは、JR貨物と線路を共有していることもあり、トンネル内でトラブルが発生した際、新幹線を待機、また、新青森駅へUターンさせる為のレールということでした。火災以外でも、トンネル内で災害が発生した場合、この駅が防災拠点となり対応にあたるようで、日本一小さな町の駅舎はとても重要な役割を果たしている実感を受けました。

ことでした。また、停電等で電気が供給できなくなった場合は、ディーゼル発電機を運転して対応し、停電対策もしっかりと取られている事が確認できました。停電も気になるところではありますが、海底にあるトンネルという事で、地震対策も気になります。しかし、先の東日本大震災でも、トンネルにゆがみなどが発生する事はなかったようで、改めて日本の技術力の高さに驚かされました。坑道体験では、揺れるケーブルカーに乗り海面下140メートルの竜飛定点に行くことができず。このケーブルカーもトンネル内でトラブルが発生した際、乗客の避難用として使用するという事で、昨年発生したトンネル内の発煙事故でも使用したというリアルな話も聞くことができました。

今回は奥津軽いまべつ駅と青函トンネル記念館の2ヶ所を視察しましたが、どちらの場所でも、想定できる災害については、常に対応できるようにしている印象を受けました。自分も会社では、防災業務を担当しており、正直どこまで準備すればいいのかということを考えます。しかし、今回の研修会に参加して改めて防災の大切さを感じる事ができました。今回、学んだことを生かして当社でも想定できる災害に対しては常に対応できるように、消防・防災資機材の維持管理及び訓練を行い、従業員が安全、安心して仕事に従事できる環境にしていきたいと考えています。



八戸液化ガス株式会社
風 穴 康 貴

10月6日(木)から7日(金)までの二日間、視察研修会に参加させて頂きました。私は5年前に参加させて頂いて以来二回目の参加となり会員の方々にお会いするのを楽しみにしていたところ変わりのない元気な姿に大変うれしく思いました。

さて、今回一日目の視察で訪問した奥津軽いまべつ駅は、日本一小さい新幹線の駅として存在している訳ですが、大変な役割を持つ防災駅として運用されている事を拝聴致しました。そんな事とは知る由もなく駅長さんの説明に聞き入っていました。

が、簡単に言うとうと青函トンネルに入る前の新幹線の異常の有無を検知し安全にトンネル内を走行できるか確認すること、また、トンネル内を走行中に異常が発生した場合に奥津軽いまべつ駅に引き返して車輛や乗客の対応をとる役割を持っていました。新幹線の駅という事だけで考えれば規模は小さく、また停車する本数も少ないため、ひっそりと静かな駅ではありましたが、役割は一番大きなものを果たしている事で存在感が大きく感じられました。北海道側にも木古内という同じような駅があり、

トンネルの入り口と出口で安全を確保し北海道新幹線を運用されている事を知ることが出来ました。私は仕事上、保安管理をしている為、日常はバッグヤードとして業務に携わっていますががこの奥津軽いまべつ駅と同じような存在でありたいと身近に感じながら視察をさせて頂きました。その他、青函トンネルの作業坑へ78mトロッコで行き、当時の作業の様子を視察しました。実際に水深148mの場所でトンネル内から溢れる湧き水を見ると崩れるかもと緊迫感があり当時の作業されている方たちの苦労はいかほどであったかと頭が下がる思いです。

(余談ですが水深148mの作業坑内でドコモの携帯が繋がった事は大変感動的でした。)
竜飛岬の絶景や個人的には25年ぶりとなる弘前城の天守閣、稲刈り寸前の田んぼアート等、なかなか見ることのできないスポットを視察できたことに大変感謝しています。総勢24名で行った視察研修でしたが、事務局である消防本部予防課員様の多大なる御尽力と参加された会員様方のご協力で素晴らしい視察を経験する事ができました。大変有難う御座いました。今後の会員皆様のご活躍を祈念し感想とさせて頂きます。

災害時要援護者支援事業

平成28年11月28日(月)から30日(水)までの3日間、各市町担当課、八戸電気工業協同組合、協同組合八戸管工事協会、(株)ユアテック八戸営業所の御協力のもと、八戸消防本部と合同で高齢者世帯、障害者世帯などに住宅用火災警報器の寄贈設置事業を実施しました。

平成28年度は、八戸市・三戸町・おいらせ町の127世帯に対し、住宅用火災警報器を合計162個、寄贈設置しました。

さらに、火気使用機器及び水回りの点検整備、たこ足配線や火気取扱などの注意を呼びかけました。

この活動は、住宅火災から高齢者などの災害時要援護者の犠牲を減らし、安全で暮らしやすい日常生活の維持に寄与するとともに、災害のない明るい町づくりの推進を目的としています。

今後、計画的に実施する予定となっておりますので、会員皆様の御協力をお願いいたします。



全体研修会



平成28年12月2日(金)、八戸パークホテルにおいて、八戸消防署に勤務する第一消防隊長の消防司令鳥谷彰氏を講師に招いて全体研修会を開催しました。

鳥谷氏からは、平成28年8月に発生した台風10号により甚大な被害を受けた岩手県に派遣された際の体験を「台風10号に伴う緊急消防援助隊岩手県派遣活動概要について」と題し講演していただきました。

講演の冒頭に、緊急消防援助隊の説明があり、その後活動概要をスクリーンに映しながらの説明でした。最後には、東日本大震災での様子をまとめた映像を放映し、参加者全員が口をそろえて「とてもいい研修だった」と、大変好評でした。

研修後は、懇談会を開催し、会員間の親睦を深めることができました。



各消防署管内主催事業

八戸署ブロック研修会

八戸消防署管内の研修会が、11月11日(金)にグランドホテル2階グランドホールで開催されました。

今回の研修は、八戸工業大学工学部機械情報技術学科 准教授 工藤祐嗣氏を講師としてお招きし、「地域防災を火災科学の視点から考える」と題し、ご講演いただきました。

講演には、会員60事業所67名、消防職員46名の総勢113名が参加し、興味深げに聴き入っていました。

講演内容は、過去の火災を町並み気象及び地形に照らし合わせ、被害状況と対策を検証したものでした。

また、地域防災計画として、都市の不燃化や地域のコミュニティが大事故だと述べた後、地域のコミュニティの中で防災意識を植え付けさせ、普段の活動が必要と訴えていました。さらには、神宮外苑で発生した火災の概要についてもご説明いただきました。

八戸消防署管内研修会では、例年防災活動交流会を実施してきましたが、今回、初めての外部講師を招いての講演会を試みたことは大変喜ばしく思います。



研修後は、同会場にて懇親会を開催し、参加者一同親睦を深め楽しい一時を過ごしました。

八戸東消防署ブロック視察研修

八戸東消防署管内の研修会を平成28年11月8日(火)に開催致しました。今回は、おいらせ町の明神山防災タワー及び津波避難階段、その後、場所を移動し八戸市多賀多目的運動場(以下「ダイハツスタジアム」という。)と多賀地区津波避難タワーの視察を行い、薄れつつある東日本大震災とそれに伴う津波に対する記憶を取り戻し、防災意識の高揚を図ることにしました。

管内の会員16名、消防職員13名の総勢29名が参加しバスで八戸東消防署を出発、最初に、明神山防災タワーに向かいました。おいらせ町まちづくり防災課の池添氏から施設概要等の説明を頂いた後にタワー内の設備等を見学、引き続き、百石道路下田百石I.C.奥入瀬川間に設置されている津波避難階段(4箇所うちの1箇所)を見学しました。



その後は八戸市内へ戻り、八戸市

多賀地区に新設されたダイハツスタジアムを見学しました。このスタジアムは、ヴァンラーレ八戸FCのホームスタジアム（観客収容数・約200人）としての性格を有しているほかに、メインスタンド棟の4階は津波避難施設（収容人員・100人）の機能も備えています。



最後は、運動場に近接する多賀地区津波避難タワーを、八戸市市民防災部防災危機管理課の杉浦氏の説明を受けながら八戸市における津波避難対策等を知ることができました。

いずれの施設においても、普段は見ることや立ち入ることができない場所・施設の視察、また、各自自治体の津波対策や防災対策の話を聞く事ができ、参加者からも積極的な質問が出る等、大変有意義な視察研修となりました。

研修終了後には、八戸シーガルビュートルにおいて懇親会を行い、話し声・笑い声が絶えることなく、参加者一同親睦を深めることができました。

八戸署・八戸東署ブロック合同研修

平成29年2月7日（火）から9日（木）までの三日間、「八戸署・八戸

東署ブロック合同研修会」として

普通救命講習が八戸消防本部5階防災教育・研修室で行われ、合計24名の方が参加し、応急手当の基礎知識・救命知識・救命手当の基礎実技・AEDを使用した応急手当を学び、講習会終了後は、修了証が交付されました。



救急救命講習を終えて



階上町役場 総務課 主事 柳沢 春乃

私は、今まで救命処置というところ、どこか他人事で、自分の周りでは起きるはずがない、誰かがやってくれらることだと思っていました。しかし、今回の講習を通して、一次救命処置の重要性を感じ、有事の際には、誰かではなく、自分が率先して行うんだという責任感が胸に沸いてきました。一分一秒を争う救命処置ですが、誰にでも起こることであり、一人ひとりの少しの勇気と行動で、尊い命を救うことができます。今回学んだことを心に留め、「救命のリレー」を途切れさせないよう、周囲の方と協力し、その時に自分がで

きる精一杯のつもりで行いたいと思います。



八戸市立南浜中学校 工藤 竜己

平成28年度八戸署・八戸東署ブロック合同研修普通救命講習会に参加させていただきました。

最初に、八戸東消防署の方々から応急手当の基本知識、救命処置、AEDの使い方等をDVDで鑑賞しながら大変わかりやすく説明をしていただきました。次に、周囲の安全や呼吸の確認、心肺蘇生法、AEDの使用手順について実際に人形を使って実演し、救助者としての役割や行動を明確に理解することができました。今回の講習を通して私自身が深く感銘を受けたことがあります。それは、「救命の連鎖の重要性」です。私たち住民による一次救命処置を行う場合と行わない場合とでは命が助かる確率が変わること、またAEDを使用するとしないのでは社会復帰率も変わることを知りました。さらに心停止は、病気による場合や環境が影響する場合もあり、私たちが日々生活している中でも起こり得る可能性があります。心肺蘇生法やAEDの使い方を誰もが理解しておく必要性があると再確認しました。命のリレーを引き継ぐ「救命のリレー」を途切れさせないために、今回の講習で学んだことを生かし、勇気をもって行動に移していこうと思います。

三戸消防署ブロック総会及び研修会

平成29年3月7日（火）三戸消防署ブロック（部会長・太田欣一郎）の総会及び後期研修会が、三戸町の田岩本店で行われました。

今回は太田屋旅館・太田欣一郎部会長がご勇退されることにより、役員改選に伴う総会を開き、その後研修会を開催しました。

総会には21名が出席し、新部会長に、ほほえみ三戸の諏訪内三千雄氏、副会長に南部病院の千葉伸也氏と坂本印刷所の坂本和哉氏がそれぞれ選任され、満場一致で承認されました。研修会は、三戸消防署員が講師を務め、自主防災組織の概要・活動内容、家庭の防災についての講習内容となっており、受講者皆熱心に耳を傾けていました。

その後行われた懇親会では会員、消防職員間の親睦を深めることができ、有意義な時を過ごすことが出来ました。

来年度からも新体制の下、地域の防火、防災のため研修会を継続していく所存ですので、引き続きよろしくお願ひいたします。



五戸消防署ブロック視察研修 及び事業報告会

平成28年10月26日(水)新郷村の間木の平グリーンパークで、五戸消防署管内の会員を対象とした研修会に、事業所及び個人会員13名、消防職員9名の総勢22名が参加しました。研修会第一部として、一般財団法人新郷村ふるさと活性化公社の田沢匡輝さんを講師に迎え「防災対策等について」の講話を聞くことができました。

間木の平グリーンパークは災害時の避難施設としての役割を担っており、避難施設としての概要や災害時に必要な知識等を教えていただき、会員の方々からは、「今後のために役立たい」、「日頃からの防災対策が被害軽減につながる」、「防災に対する意識の高揚と知識を深めることができた」との多くの感想が聞かれました。

第二部としてグラウンドゴルフ、第三部として懇親会を行い会員同士が親睦を深め、大変有意義な一日となりました。

また、今年3月15日には、アピル五戸において総員22名が参加し、平成28年度事業報告会を実施しました。報告会終了後は、昨年8月に発生した岩手県北の台風被害における「緊急消防援助隊の活動について」と題して、五戸消防署の奥山典昭消防士長が講師を務め、参加した方々は真剣な眼差しで聞き入っていました。



た。その後は懇親会を行い、参加者相互の親睦を深めることができました。

おいらせ消防署ブロック後期研修会

おいらせ消防署ブロック後期研修会が、2月21日(火)に、おいらせ町立中央公民館2階大広間で開催されました。

今回の研修は、ブロック加入事業所の社員を対象として、9事業所18名が、普通救命講習を受講し、突発的に発生した急病人、怪我人等に対する救命処置及び応急手当の仕方、119番通報要領等について学びました。最後に講習会の効果確認を実施し、最初手間取っていた行動がスムーズに行えたことに対し参加者全員から自然と拍手が出たり、積極的な質問も出され大変成果のある講習会となりました。

研修後は、月見旅館に場所を移動し総会及び懇親会を開催し、懇親会では、参加者一同親睦を深めることができました。



甲種防火管理再講習開催

平成29年3月1日(水)甲種防火管理再講習を消防本部5階防災教育・研修室で開催しました。

消防法により防火管理者を定めることになっている防火対象物のうち、一定規模以上の防火対象物の防火管理者は、5年以内ごとに再講習が義務付けられています。

そのため、対象者の知識・技能の更新を図ることを目的とし、八戸消防本部が主催、当協会が後援となり毎年開催しているものです。

今回受講された59名の方々におかれましては、これからも防火管理体制の充実、強化に御尽力されますようお願いいたします。



平成 28 年八戸消防広域圏内の火災概況

(平成 28 年 1 月 1 日～ 12 月 31 日)

◇ 火災発生状況 ◇

△は減少

区 分	平成28年(A)	平成27年(B)	増減(A)-(B)	
総出火件数	135	156	△21	
火災種別	建 物	65	66	△ 1
	住 宅	45	33	12
	林 野	14	17	△ 3
	車 両	10	15	△ 5
	船 舶		1	△ 1
	航 空 機			
	そ の 他	46	57	△11
焼 損 棟 数(棟)	130	100	30	
程 度	全 焼	45	33	12
	半 焼	11	7	4
	部 分 焼	52	23	29
	ほ や	22	37	△15
り 災 世 帯	82	59	23	
程 度	全 損	22	20	2
	半 損	6	4	2
	小 損	54	35	19
り 災 人 員(人)	193	134	59	
死 者(人)	7	7		
負 傷 者(人)	35	31	4	
建物焼損床面積(m ²)	6,942	3,972	2,970	
建物焼損表面積(m ²)	1,315	494	821	
林野焼損面積(a)	271	463	△192	
損 害 額 (千円)	344,546	259,898	84,648	
種 別	建 物	332,203	225,716	106,487
	林 野	5,927	13,555	△7,628
	車 両	5,665	3,976	1,689
	船 舶		16,329	△16,329
	航 空 機			
	そ の 他	751	322	429

平成28年中における火災の発生状況は、総出火件数が135件で、前年に比べ21件の減少となっている。火災種別でみると、建物火災65件（前年比1件減）、林野火災14件（同3件減）、車両火災10件（同5件減）、その他の火災46件（同11件減）である。

建物の焼損面積（床面積及び表面積）は、前年に比べ3,791㎡増加し、林野の焼損面積は前年に比べ192a減少している。死者は7人で増減はなく、負傷者は35人で前年に比べ4人増加している。

また、損害額は3億4,454万6千円で前年に比べ8,464万8千円増加している。

八戸消防署高度救助隊の紹介

八戸消防本部では、1月1日に八戸市が中核市に移行したことに伴い、1月6日に消防本部庁舎で八戸消防署高度救助隊「八戸スーパーレスキュー」発足式を行い、精鋭15名の隊員に隊員章が授与され、隊長が決意表明をしました。
 今後は更なる救助体制の充実強化と住民サービスの向上を図っていきます。



地域の安全・安心を守る

防災資機材準備品のお知らせ

地域の事情に応じ、災害に備えて用意しておく備蓄品・防災資機材について話し合い、世帯ごとに用意するものと各事業所で用意するものを決めておきましょう。

食糧等にあっては、1週間分は確保しておきましょう。



避難・情報収集・伝達用	No.	項目
	1	携帯用ラジオ (予備電池)
	2	サイレン付拡声器 (予備電池)
	3	懐中電灯 (予備電池)
	4	地図、模造紙、メモ帳
	5	油性マジック、ボールペン
	6	携帯用充電器
	7	トイレ用ペーパー
	8	ウエットティッシュ
	9	簡易トイレ
	10	携帯食料 (パン・缶詰めなど)
	11	飲料水
	12	タオル、マスク、軍手

救出・救護用	No.	項目
	1	バール、のこぎり、ハンマー、チェーンソー
	2	はしご、ジャッキ
	3	ロープ、ウィンチ
	4	ヘルメット、ゴーグル、ホイッスル
	5	防煙・防塵マスク、皮手袋
	6	多機能ナイフ、ボルトクリッパー
	7	テント、担架、毛布、リヤカー
	8	救急セット (消毒液、ガーゼ、包帯など)
	9	AED
	10	サランラップ
	11	医薬品・生理用品・紙おむつ
	12	ごみ袋
13	ポリタンク	

初期消火・水防用	No.	項目
	1	消火器
	2	消火用バケツ
	3	救命ボート (2~4人乗り)
	4	救命胴衣
	5	防水シート
	6	シャベル、スコップ
	7	ロープ
8	土のう袋 (砂)	

給食給水用	No.	項目
	1	清涼飲料水
	2	非常食 (乾パン、アルファ化米)
	3	炊飯装置、鍋、やかん、おたま
	4	ガスボンベ、カセットコンロ (予備ボンベ)
	5	紙コップ、紙皿、割りばし、スプーン
	6	給水タンク、濾水装置
7	着火用ライター	

【参考】 備蓄品・防災資機材 一般財団法人 日本防火・危機管理促進協会 危機管理ハンドブック®「災害から地元を守る」から引用